



# 鹿角

ネットで秋厚労ニュース  
http://www.shukouro.net/

ID shukouro  
パスワード 0188643341

メール syukoro-kyosen@w3.dion.ne.jp

# 秋厚労ニュース

NO1745号

2017年2月27日  
秋田県厚生連労働組合  
秋田市山王5-4-2  
TEL 018(864)3341  
FAX 018(864)3349

# お産で住民運動

かつの厚生病院

## 里帰り分娩受入中止

かつの厚生病院では、大学の方針に従い、今月から「里帰り分娩」の受付を中止しました。これに対して、地元住民が「鹿角の産婦人科を守る会」を立ち上げ、署名運動を始めています。



「鹿角の産婦人科を守る会」2017年2月21日

## 住民有志が「鹿角の産婦人科を守る会」を結成

かつの厚生病院の「里帰り分娩受入中止」については、2月1日に「院内広報」が配布された他、2月4日付北鹿新聞等がこれを報じ、住民の耳に届きました。各種情報を総合すれば、昨年12月末、秋田大学・岩手医科大学・弘前大学の産婦人科教授の連名で「かつの厚生病院で里帰り出産を希望する人を大館市立病院へ紹介する」旨の通知が届いたとのこと。その理由として、①人口減少や少子化による分娩数の減少、②産婦人科医師の不足、③妊娠途中から診察するリスク、

### 医療を支える地域に

この状況に住民はいち早く反応しています。35才の男性は「地元で子どもが埋めなくなれば、人口減少に拍車がかかる」と危機感を募らせ、仲間とともに「鹿角の産婦人科を守る会」を立ち上げました。去る2月21日の結成

総会には約40人が参加し、秋田大学に署名、秋田・岩手・弘前の3大学に嘆願書を提出するほか、県議会への請願も検討していくことになりました。会の代表となった安保大介さんは「産婦人科に限らず、医療を『受けるもの』から『支えていくもの』へと住民の考え方を変えていきたい」と抱負を述べました。

### かつの若者会議も「鹿角のお産を考える会」

一方、2年前から活動を開始している「かつの若者会議」も、去る2月26日に「鹿角のお産を考える」と題した集まりを開催。若男女約30人が参加し、グループワーク形式で話し合いました。

鹿角でお産ができることは「安心感が近くにある」「里帰りするチャンスになつている」「厚生病院が鹿角の魅力の1つ」。鹿角でお産が出来なくなれば「人口の流出につながる」「産まないという選択肢が出てくる」「地方が置き去りになる」「自分の出

生地が鹿角と言えなくなる」等の声も。進行役の阿部朗人さんが「この問題は地域のすべてにかかわる」と整理し、今後どうしたらよいかを問うと、「お産に関する知識や情報が必要」「女性医師のバックアップも考えよう」「今日みたいな話し合いの場を増やそう」などの意見が続出しました。

20日に行われた同会の第133回幹事会でも、この件について時間をかけて協議。地域の中から住民有志が自ら立ち上がったことを大いに歓迎するとともに、全面的に協力し、また、条件が許せば共催して何らかの行動をとることなどを確認しました。各団体の集会には「市民町民の会」も積極的に参加しています。

### 市民町民の会も

#### 全面協力

鹿角には、約11年間住民運動を続けている「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」があります。2月

鹿角では、地域を守るために、いくつかの団体や個人がつながりを強め、当面「守る会」による「嘆願署名」集めにみんなで全力を注ぐことになっています。



かつの若者会議「お産を考える会」2017年2月26日